

静岡・ケイセイ遺跡

- 1 所在地 静岡市駿河区中田・馬渕
2 調査期間 第七次調査 二〇〇六年(平成18) 一月～一〇〇七年三月
3 発掘機関 静岡市文化スポーツ部文化財課
4 調査担当者 天石夏実・鷺坂有吾
5 遺跡の種類 集落跡・官衙跡・水田跡
6 遺跡の年代 古墳時代後期～中世
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

- ケイセイ遺跡は、古墳時代後期から中世にかけての複合遺跡で、
賤機山丘陵の先端部から南東に広がる安倍川扇状地上、
標高一〇m前後に立地する。
遺跡の名称は、遺跡が最初に発見された中田の小字
「古傾城」に由来する。

- 今回の調査は、集合住宅建設に伴うものである。古墳時代後期の堅穴住居・掘



(静岡)

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

立柱建物・自然流路、奈良・平安時代の掘立柱建物などの遺構を検出し、古墳時代後期の自然流路が低湿地化した部分で多量の遺物(土器類・木製祭祀具など)が出土した。

文字関連資料として、木簡のほか、墨書き土器・硯(宝珠硯・円面硯・転用硯)が出土している。墨書き土器には「有厨」「宇厨」「国厨」「安厨」「益厨」などの文字があり、「有厨」や「宇厨」は有度郡衙の厨を示すものと考えられる。調査地が古代駿河国有度郡内に比定できることから、周辺に有度郡衙の施設があつたことを裏付ける有力な証拠と考えられる。

木簡は、平安時代前期の掘立柱建物の柱穴掘形から一点、低湿地部分から一七点、計一八点が出土した。

8 木簡の釈文・内容

掘立柱建物

- (1) 「石部田麻呂」 石部 礼雅礼□ (268)×23×13 019
(2) 「木マ。七両」

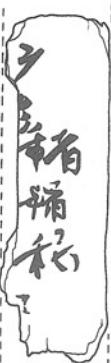
147×33×10 061

2007年出土の木簡

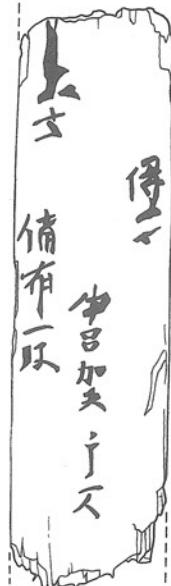
- | | | |
|------|---|--|
| (3) | 「白マ郷上襦合五斗
戸主丈マ大市五升 戸主神前臣□呑五升
戸主丈マ子秦五升 戸主他田臣久須□
戸主丈ママ五升
戸主カ」 | 戸主 ^{□□□マ} 呑 ^{□□□} 五升
戸主丈ママ五升
戸主カ |
| (4) | 「」 | 升カ |
| (5) | 「□□□□」 | □ |
| (6) | 「□一斗当百代又遣十七束
□丈校見定田百六十三束八把
□斗□呑□夫□丁一人八
□出直 値布一段 | (85)×42×5 081
129×32×3 019 |
| (7) | 「稻稻稻
□□□
〔稻カ〕
□□」 | (10) □□
(11) □□
(12) □司□□□
〔等得カ〕
□□□□ |
| (8) | 「×郷戸主神前臣□呑戸
□□□□□」 | (171)×47×4 081* |
| (9) | 「△□□」 | (103)×(33)×9 081 |
| (10) | 「」 | (110)×(12)×4 081 |
| (11) | 「」 | (33)×(14)×4 039 |
| (12) | 「」 | 98×48×3 011 |
| (13) | 「△煎八升」[合] | (111)×(17)×3 081 |
| (14) | 「□□」 | (133)×24×5 032* |
| (15) | 「□□」 | (139)×8×7 081 |
| (16) | 「□」 | (83)×(28)×7 081 |
| (17) | 「□□」 | (65)×41×4 019 |



(7)



(12)



(6)



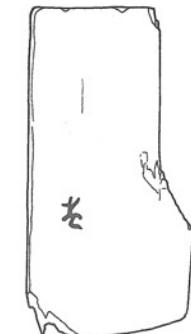
(1)



(10)



(15)



(17)



(8)



(5)



(13)



(14)



(2)



(4)



(11)



(9)

(1)は上端及び左右両辺は削り、下端は折損している。習書木簡と
考えられる。

(2)は糸巻具で、四周が削られている。(3)は四周が削り、中間部右
半が一部欠損している。「白マ(部)郷」は、「和名抄」の駿河国有
度郡真壁郷か。宝亀元年(七七〇)光仁天皇の即位に伴い、白部
(白壁)は真壁に改称されたと考えられるため、「白マ(部)郷」の
表記は、それ以前のものである可能性が高い。

(5)は四周が削り、左下は欠損している。下端は二次的削りの可
能性がある。(6)は上下両端が折損し、左右両辺は削り。裏面二行四文
字目は「伊」の可能性がある。(15)は墨痕が認められるが、文字が絵
か不詳である。

(17)は四周が削られ、右辺中程が切断されている。墨痕があるが文
字か否か不詳である。

(18)は付札で、四周が削り、右下は欠損する。国郡里制もしくは郷
里制下の木簡で、天平一二年(七四〇)以前のものと考えられる。
『和名抄』駿河国には大伴郷は存在しない。

木簡の釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料研究室の方々の
ご教示を得た。

(天石夏実)

「青森県史」資料編古代2 出土文字資料」の刊行

本書は、文献史料を集成した『県史』資料編古代1と『県史
叢書』古代1補遺の二冊に次ぐ古代北方史に関する三冊めの資
料集である。青森県をはじめ現在の北海道・東北地方・新潟県
で出土した三万点を超える文字資料を収録する空前絶後の規模
を誇る。

第一部青森県出土文字資料、第二部墨書・刻書土器、文字瓦
は遺跡ごとの資料表を主体とし、道県ごとの解説と主要な資料
の図版からなる。第三部は木簡と漆紙文書で、遺跡ごとに資料
を排列し、それぞれに形状・内容等を注記する。第四部は金石
文で、年紀にしたがって資料を排列し、多くの写真を掲載する。

お問い合わせはこちらまで

青森県環境生活部県民生活文化課県史編さんグループ

電話 〇一七一七三四一九一三九

お求めはこちらまで

青森県図書教育用品株式会社

電話 〇一七一七三四一八八一一

A4判 八一六頁 頒価五九八五円(税込、送料四二〇円)